

「論文作成」のための特別講座

練習問題 1 7

次の新聞記事を読んで、論点を指摘し、自分の考えを400字以内で説明しなさい。

毎日新聞 2009年(平成21年)2月3日(火)

スズメ50年で9割減

全国に1800万羽



以前は作物をついばむ姿が至るところで見られたスズメ。その生息数は激減している
—横浜市港北区で、岩下幸一郎撮影

「保全の緊急性が高いとは言えないが、個体数の変化をモニタリングし、原因を突き止める必要がある」と話している。
〔木下武〕

国内のスズメの生息数が1800万羽にとどまることが、立教大理学部の上三修・特別研究員の調査で分かった。餌場の田畑と、巣を作る木造家屋の減少などにより、最近20年足らずで最大80%、半世紀前との比較では90%も減少したとみられる。スズメの生息数を全国レベルで推計した調査は初めて。

調査は08年5、6月に実施。気候の偏りなどを考慮して秋田、埼玉、熊本の3県を調査地に選び、住宅地▽農

立教大研究員調査 巣作りの木造家屋減少

村▽森林—など五つの生息環境について巣の平均密度を算出。国土交通省が持つ建物用地や森林などの面積データとの比率を基に、巣は全国に約900万個あり、個体数はついで約1800万羽と推定した。

減少率は農作物の被害面積や、有害鳥獣駆除数の推移などから推定。個体数は90年以降、80%50%程度減り、60年ごろとの比較では10分の1になった可能性もあると結論付けた。

三上特別研究員は

「論文作成」のための特別講座 練習問題17 解説

資料読み取り型の論文問題であり、「資料」が「新聞記事」になっている。

したがって、「新聞記事が伝えるメッセージを読み取り、そのメッセージ(問題提起)に対して、自分の意見を説明することが求められている」論文問題である。

次に、論文執筆のための要点を解説しておこう。

① プロットを書く際に、「論点」を「自問自答」する。これがしっかりとできれば、ポイントが上がる。

② この記事が紹介している調査結果は、「すずめの激減現象は、すずめの営巣に必要な木造民家の減少が主たる原因だと」と主張している。

この立場をそのまま受け入れるか、「新聞記事」の内容そのものに疑問を提起するかで、議論の展開は大きく変わる。

すなわち、第1番目に考えられるのは、「新聞記事」という情報に対して批判的な姿勢を持って受け止める立場に立って、論文を展開する方法である。この立場では、すずめの数が増減したとする結論そのものに疑問を提示する方法と、すずめの数が増減していることを認めた上で「巣」の減少が原因ではないとする論文の2方法が考えられる。

第2番目には、この「記事」を前提にして、「すずめの激減現象の原因」を考察する方法である。その場合、この現象を避けられないものとする立場に立つか、「自然破壊」として捉えるかで論文の内容は大きく変わる。

したがって、「新聞記事」をどう読むか、は大きな論点となる。

③ 仮に、「新聞記事」が提起する問題を、「環境破壊問題」として理解した場合は、「論点」は次のようなものである。

(ア) すずめの生存に必要な条件は何か。

(イ) すずめの数が増減したことは問題なのか。

(ウ) かつては、すずめは害鳥として駆除の対象になっていた。減少させることに成功した結果ではないのか。

(エ) すずめの餌の減少が、自然破壊を象徴する出来事といえるのか。

(オ) 地球環境を守ることに、生物の多様性が果たす役割とはどんなことか。

(カ) 他の生き物・小動物と人間が共存する道はないのか。

④ キーワードは何か

すずめの巣 すずめの餌 小動物 環境破壊 食物連鎖 など

⑤ 書き方としては、標準的な「資料読み取り型小論文」の構成(段落構成)を使えばよい。

すなわち、公式は、

第1段 資料文からの「引用」

第2段 「問題提起」+「判断」

第3段 「根拠」

第4段 「まとめ」(「判断」の反復+「提案」) である。